令和元年度　西都銀上学園　学校評価

【学校評価：4段階評価】 4（十分に満足できる） 3（ほぼ満足できる） 2（やや物足りない） 1（改善を要する）

評価項目		評価の観点	方策・指導の手立て	学校評価 職員	学校評価 児童生徒	学校評価 保護者	関係者評価 評議員	平均	反省・対策
1 基礎学力の確実な定着と学力向上 「やる気」	学習指導の工夫・改善	児童生徒の学習状況と特性を把握し、個に応じた学習指導の工夫・改善を図ることができたか。	・定期テストや対外テスト・実力テストなどの結果を用いて、一人一人の学習状況を把握する。 ・一人一人のもつ学習課題に対して丁寧に対応し、個別指導の充実を図る。 ・個に応じた指導の充実を目指す教育課程の工夫改善を図る。	3.3	3.8	3.8	3.8	3.5	・対外テストや定期テストの分析と活用を推し進め、授業中の児童生徒の様子についても職員間の情報共有を図り、一人一人の学習状況を把握して授業改善につなげることができた。 ・主題研究や宮崎大学からの支援を生かすことで、明確な視点をもって授業改善に取り組むことができた。また、校種や教科の枠を取り払い、互いの実践を紹介し合うことで授業力の向上を図ることができた。 ・それぞれの課題に応じてワークシートや個別の練習プリントなどきめ細かな手立てを工夫し、一人一人の理解を支え、習熟を図る工夫ができた。 ・遠隔授業の導入などICTの活用については、今後さらに実践的な手立てを工夫していく必要がある。
	少人数指導の充実と家庭学習の習慣化	小中学校の教諭による授業協力など、児童生徒の発達段階に応じた少人数指導の充実を図ると共に、家庭学習の習慣化に努めることができたか。	・中学校教諭による乗り入れ授業により、児童の発達段階を考慮した複式解消授業を行う。 ・基礎学力の定着を図る家庭学習の取組指導と内容の充実指導を目指す。 ・学校と家庭が連携して家庭学習の充実を目指す。	3.3	3.6	3.7	3.8		・乗り入れ授業を活用することで、複式授業を解消するだけではなく、教師の専門性や特性を生かした指導、情報共有の促進など複数の効果を得ることができた。学力向上に役立っている。 ・年度当初に「家庭学習の手引き」を配付し、それに基づいて継続的な指導を行うことができた。また、課題プリントや「人生向上の記録」などの手立てを工夫し、保護者と連携を密にすることで個に応じた指導を行うことができた。 ・かなり改善はしてきたものの、課題の提出遅れなど取組状況に課題の残る児童生徒がまだ複数名いる。根気強い指導によって習慣化を図り、生徒指導や進路指導とも関連付けながら目的意識を高めていく必要がある。
	学習環境の充実と読書活動の推進	児童生徒の学習意欲を高めるような教室内外の学習環境の整備・充実に努めるとともに、積極的に読書活動を推進することができたか。	・児童生徒の学習内容を掲示したり、教室内を整理整頓したりすることで学びの環境づくりを行う。 ・ICTを活用した授業や図書室の本の貸し出しの充実を目指し、ハード面やソフト面の整備を進める。 ・児童生徒の読書活動の充実に努める。	3.1	3.5	3.8	3.8		・教育課程の工夫で清掃の回数を増やし、掲示についても工夫して、学びの環境を整えることができた。 ・実物投影機や電子黒板などICT機器を活用することで、児童生徒の興味関心を高め、理解を深める授業づくりができた。図書の貸し出しについてもICT機器の活用が定着してきている ・学校図書館や廊下の図書コーナーを活用し、読書に親しむ姿がよく見られる。以前は学年が上がるごとに読書量が減る傾向があったが、今年度は中学校3年生もよく本を読んでいた。
2 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成 「本気」	基本的生活習慣の確立	「当たり前のこと3箇条」を中心とした指導を充実させ、基本的な生活習慣を身に付けさせることができたか。 基本的な生活習慣の確立について、家庭と協力しながら進めることができたか。	・「あいさつ・返事・整理整頓」という当たり前のこと三か条を中心とした日常指導の充実に努める。 ・生活の記録や日記等を活用し、児童生徒の実態を把握するとともに保護者（里親・実親）と協力しながら、連携して指導の徹底を図る。	2.9	2.6	3.7	3.5	3.1	・当たり前のこと三カ条を中心に継続した指導を行ってきたが、定着状況にはまだ個人差が見られる。特に中学生のあいさつと返事については、さらに質の高い取組ができるよう指導の充実を図りたい。 ・生活記録や日記、また中学生においては「人生向上の記録」を通じて家庭生活の実態を把握し、電話連絡や教育相談なども活用して保護者との連携を密にし、個に応じた指導の充実を図ることができた。
	将来について考え、温かい人間関係を築く	児童生徒一人一人が将来のことを考えるとともに、思いやりや感謝の気持ちを育て、教師と児童生徒あるいは児童生徒相互の心や温かい人間関係の醸成を図ることができたか。	・キャリア教育と学校の行事等の関連を明確にすることで系統的、計画的な指導の充実を図る。 ・特別の教科「道徳」の充実に努める。 ・学校行事や異学年交流活動を通して、人権を尊重する態度や他者を思いやる心を育む。	2.8	2.6	3.6	3.3		・各種行事など、「キャリア教育」を視点としてより効果的な教育課程の工夫を行うことができた。 ・特別の教科「道徳」の充実のため、指導と評価に関する研修を充実させることができた。 ・個性や認知の偏りが強い児童生徒が複数名いる。社会性を育むためには、個に応じた指導を今後も粘り強く続けていく必要がある。特に、他者の気持ちや立場について考える力をしっかりと身に付けさせていきたい。
	体験学習と奉仕的活動の推進	伝統文化や地域素材を取り入れた体験的学習や奉仕的学習を推進し、豊かな心の育成を図ることができたか。	・地域の自然や素材を生かした体験的学習やさいと学を中心とした伝統文化に関わる学習などの充実を図る。 ・朝のボランティアや神社の清掃等、ボランティアや福祉に関する体験学習を充実させる。	3.1	3.2	3.8	3.5		・農業体験学習や伝統文化教室、銀鏡神楽鑑賞など、地域の方々の協力の得て充実した学習活動を行わせることができた。また、山村留学実行委員会や山がっこ銀上との連携により、教育課程外の活動とも関連付けながら、より豊かな体験をさせることができた。 ・山村憩いの家訪問や神社の清掃活動などを通して、福祉やボランティアの大切さを学ばせることができた。 ・今後も山村留学実行委員会や山がっこ銀上との連携を深め、体験活動を充実させていきたい。
3 健康・安全教育の推進と体力の向上 「元気」	生活のリズムの確立	生活リズムを整えさせ、児童一人一人の健康状態の把握に努めることができたか。	・「早寝・早起き・朝ご飯」など日常の規則正しい生活を推進する。 ・健康観察や生活記録・家庭連絡帳を活用する。	3.1	3.0	3.8	3.5	3.3	・健康観察や生活記録を活用して継続的な指導を行うことができた。生活のリズムも整ってきている。ただ、山村留学生に関しては、長期休業中にリズムを乱す傾向がある。里親宅での生活が、実家でも維持できるよう指導の手立てを工夫したい。
	食に関する関する指導の充実と心身の健康維持	食育の充実と給食指導の充実に努めることができたか。	・外部講師による食育授業を給食指導に生かす。 ・弁当の日を実施して、食に関する意識を高める。	3.0	3.6	3.8	3.5		・栄養教諭や野菜生産農家の方を招いた授業などを行い、食育指導が充実するよう工夫することができた。 ・弁当の日の取組は3月の送別遠足で実施予定である。
		部活動の充実や教育相談の実施を通して心身の健康を維持することができたか。	・部活動に根気強く取り組む態度を育成する。 ・児童生徒の実態把握や教育相談の充実を図る。	2.9	2.8	3.5	3.5		・部活動は、技術面より体力面中心の取組が多く、根気強さを育成する指導にまでは至らなかった。 ・教育相談は、適宜実施することで実態の把握や悩み相談などに十分な効果を上げることができた。
	安全教育の充実	学級活動や学校行事を中心として日常生活における安全教育の充実を図り、校内及び校外での事故防止に努めることができたか。	・学校安全点検等を定期的に実施し、学校の安全確保に努める。 ・避難訓練や防災教育に関わる授業を実施し、日常生活における安全への意識を高める。	2.9	3.6	3.5	3.5		・学校の安全点検は、複数の視点を生かすためにも、全職員が関わりやすい方法を今後さらに工夫していく必要がある。 ・各種避難訓練は、緊張感をもって素早い行動で実施することができた。また、外部講師を活用し、土砂災害防止教室や性教育の授業を実施することで、安全な生活や心身の健康についても深く考えさせることができた。
4 小中一貫教育の推進と家庭・地域社会との連携 「開かれた学校」	教師の指導力向上	施設一体型の特色を生かした学習指導や生徒指導における小中連携について共通理解共通実践を図るとともに、教師の指導力向上のために校内研修を充実させたか。	・授業改善の4つのチェックポイントを意識した校内研究の充実を図る。 ・校内研修で宮崎大学や西都市教育委員会の支援を仰ぎながら一人一人の授業力の向上を図る。 ・小中一貫校ならではのよさを生かしながら、教育課程の編成を工夫する。	3.3			3.5	3.4	・主題研究を中心に、授業改善の4つのチェックポイント（見届け・定着と習熟・全員参加・発問指示）を意識した授業改善を行うことができた。 ・乗り入れ授業の実施によって複式授業を解消し、よりきめ細かな授業を行うことができた。また、校種を跨いで授業を行うことにより、授業者が小中の学習内容の系統性を活かした授業を展開することにもつながった。 ・宮崎大学の支援によって、複数回の授業研究フィードバックを行い、視点を明確にした授業改善と教師一人一人の授業力向上につなげることができた。
	学校教育活動の情報発信（説明責任）	保護者・地域に向けて、学校のさまざまな教育活動の情報を発信することができたか。	・教育方針や課題についての積極的な説明を行う。 ・学校便りやHPによる情報提供の充実を図る。 ・コミュニティースクールの充実を図る。	3.4		3.7	3.8		・学校経営のグランドデザインを明示し、教師、保護者、地域に分かりやすく伝えることができた。 ・各種通信の発行や学校のホームページの更新を通して、きめ細かな情報発信を行うことができた。2学期末に取組を始めた安心安全メールについても、今後さらに活用を図っていきたい。
	山村留学実行委員会等との連携協力	山村留学実行委員会や保護者（実親、里親）、地域との連携・協力体制をつくることができたか。	・山村留学実行委員会主催の行事に協力する。 ・地域組織「山がっこ銀上」等の行事に協力する。 ・留学生の受け入れに関わり協力体制をつくる。	3.4		3.4	3.8		・地域との協力体制を今後もしっかりと築きながら、より効果的な学校運営を行っていきたい。 ・今後の学校の課題（児童生徒数の確保、社会に開かれた教育課程など）についても、対策を話合っていく必要がある。